

# 言語文化「水かまきり」

3時間扱い

## 単元の目標

- ◎主人公の価値観を転換させる中心事件に気づく。
- 作品全体の表現から、視点について理解する。

## 評価規準

知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項(工) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。
思考・判断・表現	読むこと(ア) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。
主体的に学習に取り組む態度	文章の意味は文脈の中で形成されることを理解し、文章の種類を踏まえて内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えようとしている。
知識・技能	作品内に出てくる、文脈を伴った表現についてその意味を理解できる。
思考・判断・表現	①苦悩という観点から、作品内の主人公を推察できる。 ②終盤の展開から、物語中の中心事件を、根拠もふくめ推察できる。

## 単元の流れ

次	時	主な学習活動
一	1	初読の感想を書き、主人公について検討する。
	2	作品内の中心事件を、根拠や解釈を踏まえて推察する。
二	3	視点人物とは違う立場の人物から物語を書く。

## 授業づくりのポイント

### 単元で育てたい資質能力

本単元のねらいは、作品内の展開に合わせて、主人公の価値観がどう変化したかを文中から根拠を求めてつかむ力を育むことである。展開の序盤で主人公がどのような悩みを持ち、それが終盤でどのように解決したかに着目することで、作品全体を俯瞰的な視点で見ることができるようになる。そして価値観の変容をうながした中心事件をとらえられることも本単元での目標となる。

#### 具体例

主人公の条件 ①心情が大きく変化する ②序盤で大きな悩みを抱える ③終盤で大きく価値観が変わる を提示し、水かまきりのどのような姿が、ケン坊の価値観を変えたのか、そしてそれはなぜなのか、ということ文中を根拠にして探し出させる活動が本単元のメインとなる。

### 教材・素材の特徴

「水かまきり」は、少女である「春子」の視点から描かれる、みずみずしい世界に対する描写が特徴的な物語である。表現や語彙に関しても難解な部分はほぼなく、どのような生徒であっても屈託なく読み進めることができる。主人公の苦悩も明確に提示されており、最後の中心事件に対する主人公の反応も、読者にとっては爽やかな読後感を与えるものとなっている。この主人公の物語を下敷きとしながらも、そこに少女「春子」の淡い恋心などを描き出すなど、短いながらも豊かな構成が目立つ。

#### 具体例

一人称視点でありながら、「語り手≠主人公」を示すには最適な作品である。生徒はどうしても春子を主人公として、ケン坊に対する淡い恋心に焦点をあてがちであろう。しかしそれだと、タイトルとなっている「水かまきり」との符号が合わない。タイトルは、作品のテーマそのものとも深く関わりかねない重要な要素である。そういった観点を明らかにしながら、生徒に「読み解く視点」を身につけさせていきたい。

### 言語活動の工夫

発展的基礎的問わず、ケン坊の視点から物語を再編成するという取り組みも面白い。もしこれに生徒が戸惑うことが予想されるのであれば、光村図書小学校国語教科書小学校6年生に掲載されている森絵都「帰り道」を事前に読ませると、創作のヒントになり得るかも知れない。

しかし中心的な学習内容は、やはり主人公がケン坊であること、水かまきりが再び動き出したことが中心事件となること、そしてその水かまきりの姿がケン坊に希望を与えたこと、そしてなぜ希望を与えるのかなど、基本的な解釈の「方法」を学ぶことにある。それを実現するにはうってつけの教材である。

## 本時の目標

- ①主人公の大きな変化を示す表現を見つけることができる。  
②主人公を変化させた中心事件を、根拠もふくめて発見できる。

## 本時の具体的評価づけ

- ①主人公の大きな変化を示す表現を、対比表現もふくめて探し出せる。  
②中心事件が、なぜ主人公を変化させたのかに気づき、記述ができる。

## 授業の流れ

## 1

## 第4・5場面を音読し、「ケン坊の変化が読み取れる表現」を見つけ出す。(20分)

## ケース①

- T : 主人公は誰でしょうか。  
S1: 春子だと思う。  
S2: ケン坊だと思う。  
T : どうしてそう考えたのでしょうか。根拠を述べられますか。  
S1: 春子の視点から書かれてあるから。  
S2: 作品内で大きく変化したのはケン坊だから。

視点人物≠主人公という学びは、実は小中学生の時に体験している。そういった作品などを指摘したり、前時の授業で取りあげた主人公の条件などを再提示して、どちらの人物に主人公たる妥当性があるか、ということを中心に話し合わせる。

## ケース②

- T : 主人公の変化が大きく現れている部分はどこでしょうか。  
S1: 「大きく笑った」  
T : どうしてそこを選んだんですか？  
S1: 最初の方に「かすかにしか笑わなくなった」とあって、変化している。  
T : たしかに変化していますね。大きな変化です。

音読する部分が第4場面以降なので、そこだけに注目させると難しい。最初の指示の段階で、「変化ということは、ビフォーアフターってことだよな」などと助け船を出すと、前半に振り返る生徒が出てくる。比較的分かりやすい対比なので、少し時間をとれば、生徒の中から出てくる視点なのではないかと思われる。

## 2

## 中心事件の性質と、その根拠について推察する(20分)

主人公の変化に気づけると、なぜそういった変化が起きたのか、原因を必要とすることに話題を移し、そういった主人公の価値観を揺るがす事件を「中心事件」と定義する。小説の柱はこの中心事件を見つけることにあることも伝える。

## ケース①

- T : 主人公の変化をうながした中心事件とは何だと思いますか。  
S1: 水かまきり  
T : 誰が、何をしたことだと思いますか。  
S1: 水かまきりが、泳ぎだしたこと。  
T : 泳ぎ出す前の水かまきりって、どういう状態だったんですか。

## ケース②

- T : どうしてそんなことがケン坊の価値観を変えるのでしょうか。  
S1: うーん。  
T : ケン坊の悩んで、どんな悩みでしたか。  
S2: ケガをしたことで、野球人生をあきらめて、希望を失っている。  
T : そのことと中心事件はどのように関係していくのでしょうか。

## ②はペアで話し合わせてもいいかも知れない。

「死んだように動かなかった水かまきりが動き出すのを見て、自分の今の姿と重ね合わせることでふたたび頑張ろうという希望が湧いた」というような答えになるのだろうが、「水かまきりと自分を重ね合わせている」という理解が重要である。教師がこの心の動きを「投影」と定義して解説することで、次の小説の読み取りの際にそういった言葉が出てくれば、検討や討議の内容がグッと深みを増してくる。学習用語は知れば知るほど、語るべき内容が深まりを見せる。教師はどうしても抽象内容を具体内容にすることに腐心してしまうが、実際に重要なのは小説などに描かれる具体を、いかに抽象内容や自らの体験と接続させるかが肝要である。文章内容を理解させることは本義ではない。あくまで副次的な学びである。

## 0

## プロジェクターを使って、「教材全体」を写す

令和2年度のGIGAスクール構想の一環で、高校の教室にもプロジェクターが設置されることとなった。もちろんPowerPointなどのスライドを示すのもよいが、本文を投射する工夫を行うことなども効果的である。

板書だけではなく、教科書に掲載されている本文のどの位置に授業で示されている表現があり、そしてどのような変化を見せているかなど、そういった細やかな指摘は、本文が明示されている状態で為された方が効果的である。

本時におけるケン坊の変化も、本文にマーカーなどをされて指摘されたほうが、前後の変化が明確に分かるし、自然と中心事件への注目もしやすくなる。発展的には、資料提示用の画面と教材提示用の画面を切り替えながら示せると、生徒の理解と実感がますます促進されると考えられる。

第2回 小説① 『水かまきり』 活動シート

1年組 番 氏名 ( )

活動1 本作の登場人物を挙げてみよう。

活動2 主人公は誰か、根拠をふくめて答えよう。

活動3 主人公が抱えている悩みはなにか。

活動4 この物語のクライマックスは第何場面か。

活動5 この物語の中心事件はなにか。

活動6 なぜ主人公は中心事件によって価値観が変わったのか。

活動7 主人公の変化が分かる表現を①変化前 と ②変化後 として抜き出せ。

① 変化前

② 変化後

感想

# 0. 小説を読む前の知識

## 小説の三大要素

0. 舞台背景

1. 人物関係  
登場人物は

2. 事件行動  
事件に出会い

3. 心情変化  
心情が変化する

## 小説の『主人公』

1. 主人公は「大きな悩み」  
を抱えている。

2. 主人公は物語序盤と終盤で  
価値観が大きく変化する。

3. 主人公の「大きな悩み」は  
物語終盤で解決する